

評者

廣光 俊昭*1*2

グレッグ・ボグナー、
 イワオ・ヒロセ著
 児玉聡監訳



『誰の健康が優先されるのか 医療資源の倫理学』

岩波書店 2017年9月 定価3,700円+税

医療資源のrationing：資源制約下の医療資源の配分といえば、希少な臓器を誰に移植するか、あるいはワクチンをパンデミックの際に誰に接種するかという問題が真っ先に例示され、一般に資源と人との関係をイメージしがちである。

『誰の健康が優先されるのか』(The Ethics of Health Care Rationing, 2014)で著者たちが強調するのは、このような事例は議論の話題としてはよいものの、通常、資源のrationingがおこるのは患者間ではなく、治療やサービス、医薬品、医学的処置などの間の優先順位の設定においてであることである。そして、この意味でのrationingはいたるところでおこなわれているのであり、重要なのはこのrationingが透明性と説明責任をもった仕方でおこなわれることだという。

rationingは医療の技術的性格の陰に隠れてしまうことがある。埋もれた問題を可視化することで露わになる利害を社会が調節可能であるか、疑念を持つ向きもあろう。しかしながら、著者たちは、優れたガイドラインがなければ、医療現場での意図しない間違いや偏見や墮落を生むとともに、資源不足も悪化するという。皆保険のもと我が国では国民に広く医療技術の成果が均霑され、rationingの存在をできる限り意識させることがないよう運営されている。このこと自体評価に値するものの、(日本語版への序文で触れられているように) stakeholdersによるrent seekingとは無縁でないし、なお進む高齢化と医療の高度化のなかで、rationingとどう向き合うのかは喫緊の課題である。

実践的文脈における哲学的思考の重要性：本書は、哲学的思考を梃子に、このrationingのガイドラインの策定という課題に挑んできた欧米の生命倫理学の到達点をわかりやすく紹介している。

医療資源のrationingについては、欧米の生命倫理学において長い議論の歴史がある(加藤尚武、飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』(1988年)第6部「医療における配分の倫理」所収論文の最も古い日付は1969年)。たとえば、1) 年齢による選別(Fair innings等)、2) 医学的メリットによる選別(臓器移植の適合性検査、我が国でも活発に議論されている質調整生存年(QALY)等)、3) 自己責任による選別(喫煙者だった肺癌患者と非喫煙者の扱いは同じでよいのか)、4) 富による選別(自腹を切れる者にはよい医療の是非)、5) 将来または過去の社会貢献による選別(天才科学者の卵と凡人の治療のいずれを優先するか)、6) 運による選別(くじびき)、といった具合に様々な提案がなされてきた。

本書では、利益の最大化を是とする功利主義を基礎としつつ、これら提案の多くを体系的に検討している。まず、簡便なアンケート等から健康関連QOLを測定する。これと生存年数を組み合わせることで、QALYという尺度が導きだされる。このQALYであらわされる医学的介入による利益を治療に要する費用と比較するのが費用対効果分析である。費用対効果分析に最大化を是とする道徳上の含意を加えれば、功利主義が姿をあらわす。

最大化を是とした上で、同時に著者たちは公正さも重要であるという直観にも注意を払い、両者の衝突を解決する方法を見出そうとしている。具体的には、公正による重み付け、すなわち、患者の容態(より悪い状態からの改善を優先するか)、年齢(若者を優先するか)、経済状況(より貧しい人を優先するか)など、様々な形をとり得る公平性の見地から重要だと思われる事項に則して、介入の利益への重み付けを変える方法を示唆している*3。

*1) 財務総合政策研究所客員研究員

*2) 本評は個人のものである。本評の執筆に際しては、国際高等研究所研究プロジェクト「領域横断型生命倫理プラットフォームの形成に向けて」(2017年1月)での討議から得た知見が活かされている。研究会に招いてくださった、本書の監訳者でもある児玉聡先生(京都大学)をはじめ当日参加の先生方(本書の共訳者の下妻晃二郎、斎藤信也、白岩健の各先生を含む)に感謝する。

*3) QALYの改善が誰に生ずるかによって重みを変えるという意味で功利主義から離れている。なお、著者たちによると、実際の事例では、費用対効果分析に直接公正による重み付けを導入しているものはなく、費用対効果分析と並行的に別途の考慮を払うことにしているという。

衝突する直観の間で考察を深めることで、体系の一貫性を追求することが哲学的思考の要点であると本書はいう。この指摘の重要性は強調に値する。たしかに我々は時々去来する直観に都度従うことでも、まずまず正しい日常生活をおくることができる。それでも、相反する直観を放置したまま社会規模の制度の構築に乗り出すなら、随所で問題を引き起こすことは間違いない。哲学的思考は埋もれた問題を可視化することで表面的には社会の安寧を損なうかもしれないが、露わになった問題はもともと存在していたものであり、そして哲学的思考は体系化を通じて問題を社会がどう扱うか手掛かりを与える*4。

オレゴン州医療計画：このような哲学的思考の醍醐味を瞥見させる事例として、本書でのオレゴン州医療計画についての議論を紹介しよう。

オレゴン州は80年代にメディケイドが提供するサービスの優先順位を費用対効果分析により決定したところ、アメリカ障害者法(ADA)違反との理由で連邦政府により退けられた経緯がある。計画の費用対効果分析はADA関連のほかでも多くの関心を集めた。そのひとつが(生死に関わるが、費用のかかる)虫垂炎の外科的治療より(安く済む)歯の詰め物の順位を高くしていたことである。

実際にはオレゴン州の計画は、虫垂炎よりもずっと下に線を引くことで、詰め物も虫垂炎手術もともに提供することにしていたのだけれども、虫垂炎が詰め物に劣後することは直観に反するとの非難をあげた。もし世界に詰め物を必要とする人がごまんといて、詰め物だけで資源を使い果たしてしまうのなら、虫垂炎の手術はおこなわないことになるが、それはおかしいというのである。

この順位を拒否するため、(1)各人の利益を集計することに異議を唱えることや、(2)生死に関わる介入と健康状態を改善するだけの介入を並べて比較することに反対するの一案ではある。ただし、その場合、(1)「我々は多数の者の死を防ぐことと少数の者の死を防ぐこととの間の選択に無差別であるべきだ」(p.205)、あるいは(2)「もし生命に絶対的な価値があるなら、あなたは全ての医療資源を死の防止に費やすべきである」(p.207)ことに同意する必要があるが、どうだろう。

このように直観の含意を突き詰めることで、よりよい体系の構築を目指すことに哲学的思考の価値が

存在する。

深みのある議論への期待：これまで紹介してきたことのほか、本書は、健康関連QOL計測に関する理論上の課題、障害、Fair innings、健康と社会経済的状況の関係など様々な論点について見通しのよい説明を与えている。運の平等主義を敷衍した疾病と自己責任の関係について論じた第6章、特に運の平等主義の難点を指摘したくだり(p.255)は傾聴に値する。伝統的な運の平等主義が魅力的ではないのは、それがすでに選択(例：喫煙)の結果(例：癌)が現れた時点で、つまり人がすでに不運の結果に苦しんでいるときに責任を問題にするためであるという。

本書は(著者の一人は本邦出身だとはいえ)欧米の生命倫理学に連なる成果である。本邦でのこの分野の業績として記憶に新しいものに『再考・医療費適正化』(2016年、印南一路編著)が挙げられる。同書は理念に基づく医療制度改革を掲げ、具体的には是が非でも守りたい「救命医療」と、社会全体の資源制約のもとで取捨選択をおこなう「自立医療」という類型化を提示していた。

『誰の健康』流の立ち位置からすれば、「救命医療」を不可侵のものと認めるかどうか注意深い議論が必要だということになりそうである。詰め物と虫垂炎の例でみた通り、直観が虫垂炎を劣後させることに違和感を抱くのはその通りだとしても、我々の社会が実に貧しく、虫垂炎と詰め物の間に線を引かざるをえないと想像してみよ。膨大な虫歯の患者を袖にして、(その社会にとっては高価な)虫垂炎の手術を取るかどうか、自明ではないと感ずる読者は少なくないかもしれない。

『誰の健康』と『再考』を組み合わせたのは、ひとつの例示に過ぎない。『再考』の理念はロールズに由来するとのことであるから、評者の指摘は功利主義からのロールズに対する常套的なやり口の変奏に過ぎないと言われれば、その通りであろう。評者の期待は、確固たる理論的基礎と平易な説明を兼ね備えた『誰の健康』の邦訳を機に、健康についてより深みのある議論が促されること、そして、我々の社会がより道理に適った制度を手に入れることである。

*4) そして、本書が理論上の基礎とする功利主義は、その手掛かりを見出す上で有用な基盤を提供する。功利主義は正しい解への一次接近として概ね正しい答えを提示することで、我々が正しい解に近づく手掛かりを提供する。公正による重み付けによる費用対効果分析の修正という本書のアプローチは、一次接近としての功利主義の機能を発揮したものと理解可能である。この説明はとりあえず現象の社会学的な記述にとどまるが、その哲学的基礎づけについては評者による別稿(『将来世代の問題の哲学的基礎について』(2015年))を参照。